

成果の説明書

(氏名)天羽 正継	(学部)経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>・2014年度より開始された本学地域科学研究所の研究プロジェクト（研究代表者：本学地域政策学部准教授・宮田剛志氏）の成果として、「日本における農村社会の変容と公共事業」高崎経済大学地域科学研究所編『自由貿易下における農業・農村の再生—小さき人々による挑戦』日本経済評論社、2016年3月、を執筆した。</p> <p>（概要：日本では高度成長期以降、農村部から都市部に大規模な人口移動が生じ、都市部に流入した人々のほぼすべてが第2・3次産業に従事した。また、農村部でも農業から離れて第2・3次産業に従事する人々や、それらの産業を兼業する人々が増加していった。こうした中で、建設業は彼らの重要な雇用提供先として機能し、政府、特に地方自治体の公共事業がそれらを創出する役割を担った。実際に、一人当たり県民所得の水準が低い地方ほど県内総支出に対する公的総固定資本形成の比率が高くなっていることから、公共事業はそうした地方の人々の所得水準の維持に大きな役割を果たしてきたと考えられるのである。）</p> <p>・文部科学省科学研究費（基盤研究B）「地方債の動態的実証分析」（研究代表者：東京大学経済学部教授・持田信樹氏）の連携研究者として、地方公共団体および金融機関へのアンケートの作成と集計および報告書の作成に従事した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>・2015年6月18日（木）に群馬県立伊勢崎清明高校において「財政のしくみと日本の財政問題」と題して出前授業を行った。</p> <p>・2015年8月9日（日）に本学のオープンキャンパスにおいて「日本の財政問題を考える」と題して模擬授業を行った。</p> <p>・2015年11月28日と12月5日（いずれも土）にラジオ高崎で放送された「ラジオゼミナール」に出演した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>従来からの研究テーマであるわが国の地方債の歴史的研究について、今年度はデータ整理と論文の執筆を進めた。しかし、必ずしも満足のいく結果が得られたとは言えない。そこで次年度以降は、研究のペースをさらに上げられるように努力していきたいと考えている。</p>	